

高等学校公民科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正	答	〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	4			6
	2	8			6
	3	3			6
	4	3			6
	5	5			6
	6	6			6
	7	4			6
	8	2			6
	9	4			6
	10	2			6
	11	5			6
	12	3			6
2	1	4			8
	2	2			8
	3	6			8
3	1	7			8
	2	2			8
	3	8			8
4	1	5			8
	2	1			8
	3	4			8
5	1	7			6
	2	2			6

高等学校公民科採点基準

3枚のうち2

受験科目【倫理】

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	アーレントは、ことばを用いた「活動」に着目し、人間だけが、「言論と行為」によって他者と自分との差異を表明し、伝えることができるといい、これを「活動」とよんだ。労働や仕事ではなく活動によって、私たちは刺激を受け、理解しがたい他者の行為やことばを見聞きしようという関心を持ち、自分を変容させる公共的空間を開くことができると主張した。このようにアーレントは、「公共的空間」を、活動を通じて、他者と出会い、他者と言葉を交わしてかわり、他者たちが表明する複数のものの見方を前にしてはじめて、私たちは考え始めることができる人間の第二の誕生の場と捉えた。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
2	ウィトゲンシュタインによれば、私たちは、単語をくみあわせて命題をつくったり、その命題どうしをくみあわせて、現実を起こっていることを写しとったり、現実には起こっていないが論理的には可能なことをいいあらわしたりしているが、どのようなことについてもそのように語ることができるわけではない、と主張した。ウィトゲンシュタインは、要素を分析してその真偽をたしかめることのできる科学的命題のような言説と、神や善悪についてのようには、どのような命題をつくっても正確にはいいあらわすことのできない言説を区別し、人生の意味や善悪、神の存在などは、現実の事象に照らして論理的に確認できるものではないため、「語り得ないことについては沈黙しなければならない」ことになるとした。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
7	例えば、教師は、資料Ⅰを用いて、前時のアリストテレスに関する学習内容を復習する。そして、本時の学習課題として、なぜアリストテレスは正義より友愛を重視したのか？などの問いを投げかける。 次に、資料Ⅱを読み取らせ、この状況における問題点や疑問点を挙げさせ、ヒロシ、タイチ、コウタ、それぞれに欠けているものは何だろう？などの問いを投げかけ、3人それぞれの欠けているものをグループで協議させる。その際、資料Ⅰを踏まえて考えることを意識させる。例えば、ヒロシはタイチの不正に気付いていながらそれを言い出せない点から、アリストテレスの示す倫理的徳における「勇氣」について不足した状態である。タイチは人の持ち物を隠すという不正を働いている点から、アリストテレスの示す「全体的正義」に基づいて行動できていない。コウタは自分の成績が優秀であることを必要以上に強調し他者を蔑んでいる点から、アリストテレスの示す倫理的徳における「自尊」が過多の状態になっている、という答えが想定される。 最後に、この3人に共通して欠けているものは何かという問いかけを行い、それが「友愛」であることに気付かせ、アリストテレスが友愛に正義を超える意義を認めていたことを理解させる。この協議や意見交換を手掛かりに、「人間としてどう在ればよいのか」について考えさせ、それを考えるにあたり、「アリストテレスの思想がどのように生かせるのか」ということを考えさせる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	24

高等学校公民科採点基準

3枚のうち3

受験科目【政治・経済】

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答	〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
6	1	この財は、均衡価格 P_0 のとき、需要量と供給量は共に Q_0 であるが、政府による価格への介入によって、価格が P_1 に固定されると、取引される財の数量は、供給量が Q_1 、需要量が Q_2 となり、この財の市場では Q_2 から Q_1 を引いた数量が超過需要（買い手はたくさん欲しがるが、この価格で売りたいと思う売り手は少ない）となる。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
	2	垂直の需要曲線は、消費者の求める需要量が、価格のいかにかわらず全く変化しないことを示している。価格の変化率がどんな値をとっても、需要量の変化率は0%になる。言い換えれば、需要の価格弾力性は0である。例えば、糖尿病患者にとってのインシュリンの需要はきわめて価格非弾力的であり、需要曲線はほぼ垂直になる。また、価格が0の場合は、生産者が代替財に移行し、価格が無限の場合は、消費者が代替材に移行する可能性がある。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
7		例えば、教師は、資料Ⅲを用いて「なぜ消費税に軽減税率が導入されたのか」などの問いを設定する。 次に資料Ⅰの公平の原則に着目させ、所得税と消費税の税制を比較させ、それぞれ垂直的公平または水平的公平の考え方を基に説明させる活動などを行う。その際、それぞれの長所・短所にふれ、例えば、所得税は、長所として累進性と各種の控除により、垂直的公平と再分配機能に優れており、また、景気の自動安定化装置としての機能があること、短所として累進課税であるため、労働意欲を阻害するおそれがあり、また、所得を正確に捕捉しにくいことを理解させる。一方、消費税は、長所として消費に対して均等に課税するという点で、水平的公平に優れており、世代間の税の不公平感が少ないとされていること、また、所得税よりも徴税が効率的で税収が安定すること、短所として低所得者の負担が重くなるという逆進性があることを理解させる。 その後、資料Ⅱを用いて「この資料から何がわかりますか」や「何がいえませんか」などの発問を通して、日本の税収の直間比率の特徴を読み取らせ、現在の日本では、所得税に代わって消費税が中心的な租税になりつつあること、消費税による税収は、所得税に比べて景気変動の影響を受けにくいこと、高齢化にともない増加している社会保障費に対する安定財源としてふさわしいとされることを理解させる。さらに、「直接税中心の税制と間接税中心の税制のどちらが望ましいか」などの問いを発し、一般に、直接税の方が垂直的公平性を満たしやすく、間接税の方が中立性を満たしやすいことに気付かせ理解を深めさせる。このように日本の税収は間接税である消費税の割合が増えているので、家計への影響を緩和するために、幅広い消費者が購入している飲食料品（酒・外食を除く）等に係る消費税率を8%とする軽減税率を実施していることを理解させる。 以上のように、税の在り方について、日本の人口構造や社会保障と結び付け考察させることで、持続可能な租税の在り方や公平性と中立性をバランスよく満たす税制について考えさせる。		問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	24